

プログラム

ピアノ・ソナタ (1958)
Sonate pour Piano seul

子守歌 (1987)
Berceuse

シェーナ
～ピアノのための前奏曲 (1973)
Chânes
- Préludes pour Piano

アン・ヴェール (1980)
En Vers

ピアノのために
～円環と交差 I, II (1995, 1998)
Pour le Piano
- Mouvement Circulaire et Croisé I, II

出演者

谷口 知聡 Chisato TANIGUCHI (ピアノ)

未来に
伝える
三善晃の
世界 IV

2023年 **11月10日** (金)

開演 19:00 (開場 18:30)

東京オペラシティ リサイタルホール
Tokyo Opera City Recital Hall
(京王新線「初台」駅東口下車 東京オペラシティビル直結徒歩5分)

入 場 料 | 一般 4,000 円(前売) 4,500 円(当日)
(全席自由席) | 学生 3,000 円(前売) 3,500 円(当日)

チケット: 東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999(月曜定休)
お問い合わせ: 03-3338-2731 (福田) tutaeru2015@gmail.com

主催: 三善音楽を未来に伝える会
後援: 日本現代音楽協会
録音: コジマ録音
協力: ピアノスタジオ・ジャコメッティ
宣伝美術: 株式会社プランニング・ヴィ

山内龍雄「絶筆」2013

三善晃とピアノ

三善晃とピアノの関係は深い。20年の歳月をかけて完成させたピアノ教則本 Miyoshi ピアノ・メソード全12巻は、すべての曲を三善自身が新たに作曲している。そこでは、三善は、日本語で作曲するという態度を貫いており、更には、日本人のピアノ学習者に日本語で演奏することの大切さに気づいてほしいという願いを込めている。また、ピアノは幼年時代から自分の親しい友であったことを何度も文章化している。しかし、不思議なことに、三善にとって親しい存在であるピアノのために書いた独奏作品は多くなく、演奏会で弾くことを前提としたものは、プログラムに載せたピアノ・ソナタ、子守歌、シェーン、アン・ヴェール、ピアノのために、の5作しかない。その理由を、三善は、親しすぎる関係が却って創作をためらわせる、とか、合唱曲(この数は多い)のピアノパートをピアノパートのみで音楽になるように書いているためピアノ曲を書くという欲望が充足されているのかもしれないと告白している。そうであれば、ピアノ独奏曲を書く時、三善は妥協とは無縁の姿勢で作曲に取り組むに違いない。妥協を拒む態度は、三善の創作全般を特徴づけるものだが、ピアノに向かう時、その決意はますます強くなるのではないか。実際、上にあげた5作には三善の思想が凝縮されており、それを理解するには、辛抱強く何度も繰り返し作品を聴くことが求められる。それは努力を要することだが、少しずつ三善の声が聴こえてくるようになれば、その努力は楽しいも

のになるだろう。理解するのに努力を必要とする音楽があってもよいし、そういった音楽の代表である三善作品を一人の演奏家に託し一夜で紹介する演奏会があってもよいだろう。

その一つの試みとして、「未来に伝える三善晃の世界Ⅳ」を開催する運びとなりました。三善作品を託す新しい世代のピアニストとして、2020年の競楽XIVで権代敦彦の「耀く灰」を弾き第1位となった谷口知聡さんに出演していただくことが叶ったのは、私どもにとって大きな喜びです。谷口さんは、2021年に桐朋学園大学音楽学部を卒業、同年にパリ国立高等音楽院に留学され、現在は第二課程ピアノ科で研鑽を積まれています。ベートーヴェンの特集したラ・フォル・ジュルネ TOKYO 2023では、一時帰国した谷口さんはベートーヴェンと権代敦彦の作品111を取り上げ、両者の内なる声に耳を傾けることで、それぞれの祈りが意外に近い関係にあることを私たちに教えて下さいました。作品111、それは「ピアノ・ソナタ第32番」と「耀く灰」です。その祈りは三善の祈りにも通じているし、同時に、谷口知聡の祈りでもあるのでしょうか。「未来に伝える三善晃の世界Ⅳ」では、三善晃と谷口知聡の祈りを聴いていただきたいと思っております。どうぞ、御期待ください。

三善音楽を未来に伝える会 代表 福田 隆

谷口 知聡 Chisato TANIGUCHI (ピアノ)



©Marie Laure Jolibois

桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部ピアノ専攻を卒業後、奨学助成金を得て渡仏。現在パリ国立高等音楽院第二課程ピアノ科でFlorent Boffard氏に師事、2023年9月より同音楽院の第二課程室内楽科に在籍予定。

2022年第15回オルレアン国際ピアノコンクールで第2位、及び「アンリ・デュティユー レジデンス-ジュヌヴィエーヴ・ジョワ」賞を受賞。また、2020年第14回現代音楽演奏コンクール「競楽XIV」で第1位を受賞。

渡仏後、南仏のラ・ロック＝ダンテロン国際ピアノ音楽祭やイタリアのTraiettorie現代音楽祭などの音楽祭に招かれてリサイタルなどを行い、2023年のラ・フォル・ジュルネ東京では東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団と共演。また2023年春にはレジデンスアーティストとして、アンリ・デュティユー財団が運営するMaison Dutilleuxに1ヶ月の滞在を許され、リサイタルやレッスンを行う。

これまでに廻由美子氏にピアノを、堤剛氏と松谷園子氏に室内楽を師事した他、現在Sébastien Vichard氏、Hae-Sun Kang氏(室内楽)のレッスンも受けている。またJean-Claude Penner氏、Thomas Hell氏、Till Fellner氏、Jean-Yves Thibaudet氏の各マスタークラスを受講。

明治安田クオリティオブライフ文化財団2021年度及び2022年度海外音楽研修生、ローム ミュージック ファンデーション2023年度奨学生。

これまでの記録

未来に伝える三善晃の世界Ⅰ

2015年9月14日
杉並公会堂小ホール
カイエ・ソノール (1985)
子守歌 (1987)
アン・ヴェール (1980)
鏡 (1981)
円環と交差 I, II (1995, 1998)
随風吹動 (1999)
オマージュ (1979)
響象 I, II (1984, 1995)
唱歌の四季 (1986)

未来に伝える三善晃の世界Ⅱ

2017年10月13日
東京オペラシティリサイタルホール
流觴曲水譜 (1986)
白から黒へ《変転》(1982)
樹を、波と… (1980)
戯曲 (1994)
花骨牌 (1990)
黒の星座 (1989)
トルス IV (1972)

未来に伝える三善晃の世界Ⅲ

2021年12月10日
東京オペラシティリサイタルホール
母と子のための音楽 (2002)
C6H (1987)
プロターズ (1974)
エピターズ (1975)
ギターのための五つの詩 (1985)
弦楽四重奏曲第1番 (1962)
弦楽四重奏曲第2番 (1967)
弦楽四重奏曲第3番 (1992)
黒の星座 (1989)